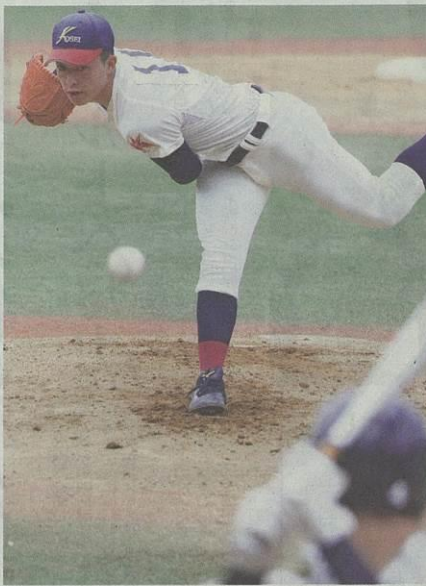


# 第64回 高校野球 春季東北大会

第1日目

第64回春季東北地区高校野球大会は8日、仙台市などで開幕した。初日は仙台市民球場での開会式後、石巻市と宮城の2試合が行われ、石巻が2対0で勝利した。9日は、岩手第2代表の久慈いわきと青森第2代表の弘前が対戦する。10日は、青森第1代表の青森山田と宮城第2代表の宮城野田が対戦する。11日は、青森第2代表の弘前と岩手第1代表の盛岡大付が対戦する。12日は、青森第1代表の青森山田と宮城第2代表の宮城野田が対戦する。

# 投手陣粘り 光星8強



# 向井復活 巻き返し誓う

## インタビュー

頼れる左腕が帰ってきた。今春に腰を疲労骨折し、地区予選、県大会を戦線離脱していた光星の向井時恩が、東北大会の大舞台で先発、5回3安打、1失点と復活の投球を見せた。向井は「コントロールや質、メンタルは昨年より」と手応えを口に、大きくつなげた。

「2回戦・明桜(八光光星)先発し、5回3安打1失点と好投した光星の向井時恩(仙台市辰)を許したが、これ以外は味方の好守にも助けられ、リズム良く打者打ち取った。県大会後の練習試合で復帰したが、いくつかの課題を投げるにとまっていた。しかし、この日は5回までマウンドを守り、味方の信頼を勝ち取った。仲井監督も「これだけ投げている感じもあるが、よく投げた」と及第点を与えた。約2カ月の治療期間、筋力トレーニングやランニング、柔軟で自分自身の体と向き合い、時間をかけて補強した。あの時間は無駄ではなかった。日々の公式戦マウンドで精進の投球ができ、復調を実感している。夏の甲子園出場を掴むためにも、今大会は「信頼値を得ることが大事」と力を込める。「自分が試合で投げ抜く」という強い気持ちで、これが巻き返しだ。」(金澤千優希)



2回戦  
明桜(秋田) 0100000100  
八光星00001200X 32  
(明)山口航一、岩城圭  
(〇)向井、福山、成田

【評】光星は二回に先制点を奪われたが、五回2死二塁から吉田の内野安打で追い付いた。六回には相手の野逸や暴投の隙を突き、2点を追加した。先発向井は5回1失点で試合をつくり、難投した福山、5番手成田が粘りの投球で、最少失点に抑えた。

5回光星2死二塁、吉田大樹の内野安打で、二走花房大晴が一気に本塁を陥れる。